卒業生インタビュー･シリーズ （その 15）

更家　悠介（さらや　ゆうすけ）様　　サラヤ株式会社　代表取締役社長

はじめに

（会長） 本日は大阪大学工業会の「各界で活躍されている卒業生への会長インタビュー」のためにお時間をいただきありがとうございます。各界で活躍の方々に，貴重なご経験や大阪大学工学部への想いについてお話をお聞きし，既に大阪大学工業会のホームページ（Techno-Net）に公表させて頂いております。本日は，サラヤ株式会社 代表取締役社長の更家様にインタビューさせて頂きます。

更家様は，1974 年に大阪大学工学部醗酵工学科を卒業後米国へ留学，1975 年にカリフォルニア大学バークレー校 工学部衛生工学科修士課程を修了され，帰国後 1976 年にサラヤ株式会社へ入社，1979 年常務取締役に就任後，一貫して事業経営に尽力され，1998 年 に代表取締役社長に就任されて，既に 20 数年の長きにわたりサラヤの経営に携わり，サラヤの成長と信頼性を高めることに大きく貢献されました。

更家様は，三重県熊野市で代々林業を営んでおられた生家の世界観から自然にやさしい商品開発に取りくまれ，生活での衛生を第一に我が国のみならず，特に開発途上の海外への生活の向上に貢献する事業展開を進めてこられました。また，多くの関連会社を創設されるなど，その活動は広く評価されると共に，青年会議所・商工会議所などの活動を通じて経済界への貢献も大きく，藍綬褒章はじめ多方面から評価を受けておられます。本日は，更家様の企業経営の神髄や後進に向けた貴重なご意見をお伺いすることにいたします。

大阪・関西万博でブルーオーシャン運動の展開を

（会長） 本日はご多忙のところお時間をいただきありがとうございました。是非，更家様の経験に裏打ちされた，同窓生・学生にとって有意義なお話が伺えることを願っております，

インタビューに入る前に，更家様が最近大きく尽力されておられる 2025 年の「**大阪・関西万博**」への想いと取組の内容のお話からお伺いいたします。

（更家社長） 万博については，私が理事長をしております NPO 法人**ゼリ・ジャパン**が，民間パビリオン出展者として参加する予定です。ゼリ・ジャパンは，資源とエネルギーを循環再利用し，廃棄物を 0 に近づける「**ゼロ・エミッション構想**」を出発点として，日本における環境教育の啓発と実践により，循環

型社会を実現するために設立されたＮＰＯ法人です。サラヤは，この法人が出展するパビリオンの協賛企業の一つです。

大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に，海というかけがえのない資源の持続的活用と豊かな海洋生態系の保全という観点からアプローチし，多くの来館者，特に未来を担う子供たちが楽しみながらも環境保護への意識が高められるような展示・演出を目指しています。そこでの当ＮＰＯの狙いは，（１）プラスチック海洋汚染の防止 （２）海の持続的活用（観光や資源，地域開発）に向けて，**ブルーオーシャン運動**を展開することです。このブルーオーシャン運動は，このパビリオンとも連動しながら「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現を目指します。

（会長） パビリオンなどについての具体的な計画はおありですか。

（更家社長） フランスではあるのですが，**ゼロ・エミッション・ボート**を設計しており，スポンサーが付けば万博で見せたいと考えております。また，**海洋プラスチック**問題については，大阪大学の宇山浩教授の指導のもと，生分解プラスチックの活用や，現在の化学工業でもプラスチックの利用を少なくすることやゴミ処理で，サーキュラーエコノミーを実践することによって流れ出しも避けて，海洋へのプラスチックの流れ出しを少なくするシステムをデザインし提示することを目指しています。

このような考えを具体化するために，「**ブルーオーシャン・ドーム**」を造って，「海の蘇生」をテーマに掲げ，地球や海に対する態度変容を起こすような圧倒的な表現装置とともに，海の持続的な活用にちなんだ展示スペースや各種イベントを実施します。

（会長） 海をテーマに具体的な課題への取組もありますか。

（更家社長） 海の魚の**陸上養殖**も着目点です。最近は陸上養殖業が盛んで，例えば福岡の放送会社 RKB 毎日ホールディングスは，宗像市で鮭の陸上養殖を行う予定です。マルハニチロは，みずほ証券の 50 億円ぐらいの SDGs 債（ESG 債）を活用し富山で鮭の陸上養殖を，また，エア・ウオーターも長野で鮭の陸上養殖を進めておられます。

この陸上養殖で**餌**の話が出てきまして，いまは鰯とか鯖の小魚をフィッシュミールにして与えているのですが，もう少し何とかできないかが課題です。昆虫食とか，魚の昆虫食とか，魚の植物食とかをやりながら，プロテインの効率を良くすることはできます。このような餌に注目し「エサ」の研究をしている人も多くいます。「ブルーオーシャン・ドーム」では，この**陸上養殖とエサの問題**についても取り上げたいと考えています。

（会長） 万博については，大阪大学でも万博担当理事を任命して，「いのち輝く未来社会」への提言につなげる動きを進めていると聞いており，理事・副学長の田中学先生が担当しておられますので，何らかの連携に繋がるといいですね。

（更家社長） そうですね。田中教授は「接合研」の前所長でしたね。ゼリ・ジャパンは自然に習って廃棄物ゼロ社会を目指すことが理念ですが，「**接合**」についてもいろいろな課題があります。例えば，海藻が岩にくっついている接合とかの生物的接合は自然界に沢山あるのですが，そのくっついている接合の機構などについて研究課題も多いのではないでしょうか。生物材料では自然と分解する方向に進むことが多いのですが，くっついている機構について研究して欲しいですね。

（会長） このような分野の接合機構なども含めて，接着・接合の分野は大阪大学・接合科学研究所を含めて，研究者が海外に比べて我が国では少ないですね。接着剤メーカーは多いのですが。
　ものが「くっつく」ことと「離す」ことの研究はゴミ問題にも繋がる研究課題でしょうね。

世界の「衛生・環境・健康」に貢献する「サラヤ」へ：殺菌・消毒のできる石鹸から

（会長） 万博への想いについて，これまでお話を伺いましたが，このような活動とも関係します「サラヤ株式会社」の事業，更には経営理念やビジョンについてお話し頂けますか。

（更家社長） そうですね，サラヤ創業者の私の父，更家章太の生家は三重県熊野市で代々林業を営んでおりました。熊野は，日本古来の宗教・世界観のルーツであり，太古の自然が息づく日本の原郷といえます。父は，この**熊野の山奥で清流の鮎や鰻，川海老を捕り，豊かな自然の恵みに育まれて成長し，**その基本的考え方は，いまも我が社の企業理念に繋がっていまして，サラヤでは，互いに密接な関係にある**「衛生」「環境」「健康」**という３つのキーワードを事業の柱とし，より豊かで実りある地球社会の実現を目指しております。

衛生：安心で清潔な生活の実現に向け，様々な感染リスクの低減に貢献します。
環境：開発から廃棄にいたる全工程において，持続可能な製品づくりを目指します。
健康：製品とサービスを通じて，すべての人々の健康で文化的な生活を支えます。

（会長） このような理念に繋がる御社の事業をどのように展開してこられましたか。

（更家社長） 「**衛生**」という点では，元々サラヤがスタートしたときに赤痢がはやっていまして，1952 年に**赤痢予防は手洗いから**ということで，手洗いと同時に殺菌 ・消毒ができる液体石けんとディスペンサーを開発し販売を始めたのが始まりです。
　「**環境**」という点では，大気汚染が問題になったときの**うがい液**の開発になります。また高度経済成長期に起きた，石油系合成洗剤を原因とする河川や湖沼の汚染問題を受け，1971 年に植物原料であるヤシ油を原料にした洗剤を作り，1979 年には家庭用台所洗剤「ヤシノミ洗剤」を発売しました。

「**健康**」は，1995 年に発売しました植物由来 100%でカロリーゼロの甘味料「**ラカント**」の開発などで展開しています。

この「**衛生**」「**環境**」「**健康**」の３つの柱で事業展開をしています。

「参考」*サラヤ株式会社の事業内容*

1. 家庭用及び業務用洗浄剤・消毒剤・うがい薬等の衛生用品と薬液供給機器等の開発・製造・販売

2. 食品衛生・環境衛生のコンサルティング

3. 食品等の開発・製造・販売

（会長） 大阪大学でも人々の「ウェルビーイング」を謳っているのですが，この 3 つの柱は人々のウェルビーイングにつながるということですね。

（更家社長） そうです。ウェルビーイングでは人々が良い生き方をしましょうということになりますが，大事なことは「**地球のウェルビーイング**」と言うことでしょう。ウェルビーイングのコンセプトをもう少し広げていくことも意識するべきです。

地球市民宣言：ビジネスのあり方にも地球市民感覚を

（会長） これまで伺いました企業理念などを踏まえて，未来社会についてはどのようにお考えでしょうか。

（更家社長） 次世代に向けて，「地球市民」の視点で切り開く地球環境時代のビジネスをということで，昨年『地球市民宣言―ビジネスで世界を変える」という本を出版しました。

これは，現在，各国独自の利益重視が非常に強い状況で，個々の利益を強く求める風潮が，分からないこともないのですが，空気とか水とか海洋とかの**国境のないもの**が汚されて良いわけがなく，二酸化炭素が増えることでの温暖化，更には海水温度の異常状態が発生し，台風や日照りとか，海流の蛇行などの変化などが生じてきています。また，大西洋では，グリーンランドの氷河崩壊などによる淡水流入によって海水の密度や塩分濃度が変動し，海洋の大循環に異常が生じてきているとも。このような異常気象・異常現象についても，我々はもっと理解しなければなりません。その上で，このような問題の解決や発展に向けて，工学的に開発研究を行うことが重要で，そこで重要なのは「**地球市民**」感覚でしょう。

国と国の争いなどもあるのですが，我々企業としては，地球市民感覚を常に持ち続けて事業展開を図るべきであると考えています。

大学紛争と大阪万博の時期に醗酵工学科に入学，その後 UCB への留学

（会長） サラヤの企業の理念についてお話をうかがってきましたが，サラヤでの経営の原点をお伺いいたします。社長は 2 代目になりますね。

（更家社長） そうです，父親から承継いたしました。もともとは，阪大を卒業したあと米国に留学し，カリフォルニア大学バークレー校を修了した時点で，米国の企業に就職することで内定をもらっていました。大学院生で，日本語が話せて，英語もしゃべれるということで重宝がられていたのです。

ただ，その当時オイルショックの後でサラヤの状況も芳しくなく，父親から帰ってこいと言うことになって，帰ってきてサラヤに入社することになりました。これがサラヤでの仕事のスタートとなっています。

（会長） 元々三重県で事業をしておられて，サラヤは大阪で起業されたのですね。

（更家社長） そうです，更家家は三重県・熊野で代々林野業をしていて，伐採した木材を筏にして熊野川（新宮川）で新宮まで流していたようです。この自然環境はサラヤの事業の原点にもなっているのです。

（会長） このように留学される前に大阪大学工学部醗酵工学科を卒業されているのですが，選択の動機は。

（更家社長） 特に**醗酵工学科**を目指したと言うよりは，父親に応用工学に行けといわれたのですが，言われたとおりに従うのはいやだと思い，生物とか微生物とかには興味があったので，醗酵工学科を志望することにしました。醗酵工学科では，4 回生の時の卒業研究で，市川先生が排水を微生物で浄化する研究をされていて，面白そうだと研究室に入れていただきました。

（会長） 遡って大阪大学を選ばれたのは，やはり大阪でということでしたか。更家さんが卒業された天王寺高校からは，当時は大阪大学に 100 名近い生徒さんが入学されていましたね。

（更家社長） そうですね，やはり大阪ということで。醗酵工学科に入ったところ，やはり醸造の歴史のある学科で，同級生にも酒屋や味噌屋さんの息子などが多かったですね。

入学した 1970 年は，東大の入試がなかったときで，正に**大学紛争**の影響が大きく，大阪大学でも豊中キャンパスのイ号館が封鎖されて，立て看板が並んでいた時期でした。入学はしたけれども講義がなく，教養部の豊中でなく，結局，工学部預かりで，吹田の方で学部の先生方に面倒を見てもらっていました。

（会長） そうですね，私は 1969 年に修士を修了して助手になったのですが，吹田でも電気系や原子力の建物が封鎖されていたときで，とにかく大学に行けども会議や団交などと騒がしい時代で，今の学生さんは想像もつかないでしょうね。確かに，1970 年入学の学生さんは工学部の研究室持ち回りで面倒を見たことを思い出しました。講義もできないので，研究内容の紹介や大学周辺の竹林へタケノコ掘りに行ったりして時間を潰していたりと，大変な時期でしたね。

（更家社長） 吹田キャンパスでは遊ぶところが限られていたのですが，ただ，1970 年は，大阪万博の年で，会場が吹田キャンパスの隣でしたので，万博へは度々行きました。20 回以上は行ったでしょうか。

入学からの半年間ほどは，万博があったおかげで，世界中の出し物や文化に触れたことは良い思い出でもあり，万博から始まった学生生活でした。

米国大学の入学制度と融通のある単位システム

（会長） その後，吹田で卒業研究まで過ごされたのですが，海外への留学はどういうことで目指されたのですが。

（更家社長） 阪大，特に醗酵工学科は，結構，海外交流を行っていましたので，東南アジアのマヒドン大学，カセサート大学などとの連携も進んでいましたし，研究室にジャカルタからの留学生もいました。英語が話せたので，留学生との交流会などにも呼ばれたりしていましたので，アメリカでも行こうかと思いました。

（会長） UC バークレー校だと，入学が難しかったのではないですか。

（更家社長） 一応申し込み，成績表や推薦状などを送ったら OK ということでした。米国の大学は，比較的間口を広くして入学させ，途中で落とされる者が多く，私の周りでも途中でいなくなる者も沢山いました。海外からの留学生も多く，インドや東南アジア，それに台湾等からも多かったですね。

（会長） その状況の中頑張られたのですね。

（更家社長） インターナショナル・ハウスという寮に入っていたのですが，500 人ぐらいの大きな寮で，学部は二人部屋なのですが，大学院生は個室でした。宗教的な戒律などがあるので，食堂の料理も各国料理があるなど多様だったのですが，あまりおいしくないので，白ご飯に塩をかけて食べていたら，台湾の数学専攻の修士の学生がシンパシーを持って寄ってきたこともありました。このように楽しく過ごしていました。

（会長） 米国に留学されて，アメリカでの大学のシステムで感じられたところはありますか。

（更家社長） そうですね，修士は修士論文以外に 36 単位が必要で，クオーター制で単位を取るのですが，ストラクチャーがはっきりしていて，中間評価はこうする，その前後では，この文献を読んでおきなさいなどとはっきりしており，構成がブリックといいますが，レンガを積み上げる様に単位を積み重ねることができる様になっています。また，他のコースでの取得単位も認められる自由度もはっきりしており，単位獲得が分かりやすくなっている特徴があります。

やはり，講義体系がはっきりしていることでやりやすかったですね。日本の場合は，これを取らなければならないというガチガチの感があり，一つの失敗で終わってしまう様な講義のシステムには工夫が求められますね。

（会長） 日本の大学は，ある意味丁寧でもあるのですが，融通がないともいえますね。

ただ，先ほどお話のありました，間口を広くとの制度設計は，留学経験がある方々からよく指摘されるのですが，我が国では中退させることが難しく，やはり社会全体の評価システムの再考が必要ですね。

（更家社長） そうですね，ただ，退学で終わるのでなく，推薦状を持って他大学に移るなどの制度もできあがっており，全体的な制度設計が重要ですね。

大学でのクラブ活動の意義：人の繋がり

（会長） ところで，大学に入学されてクラブは柔道をされていたのですね。

（更家社長） はい，大学に入って柔道を始めました。

（会長） クラブ活動をされていて良かった点などありますか。

（更家社長） いや，毎日練習させられて，大変でした。途中で辞めるのもシャクなので，最後までやっていました。ただ，クラブに入ることで，同期・上下の**人の繋がり**ができることは良かったことですね。
いまでも母校のクラブの支援などいろいろな関係が続いています。

（会長） 最近はクラブに入らない学生さんも多いようなのですが。

（更家社長） サークルなどで，楽しく行うことも悪くは無いと思いますが，クラブはきついかも知れませんが，挫折と充実感なども一つの経験だと思います。
最近は柔道部への入部も，女性はチャンピオンになった方がいたりして増えてきているのですが，男子の入部が少ないようで，是非勧めておいて下さい。

イノベーションが企業経営の最重要課題：自主独立的に活動する人材が活躍

（会長） このように大阪大学工学部，そしてカリフォルニア大学バークレー校を経てサラヤに入られ，かなり早い時期に経営的な立場に立たれましたが，経営で大切にされてきたことはありますか。

（更家社長） やはり経営の基本は，経理とか会計をしっかり管理することですが，そこばかりに重点をおいていても売り上げが伸びないので，重要なことは「**イノベーション**」ということになるでしょう。やはり，新しいやり方で新しい価値を生み出すことが必要で，それを生み出す体制をつくり，イノベーションを常に考えて実践することが重要です。いまは，どの業界でも必要ですが，過去の枠に囚われず**新しい業際**に移ってきており，例えばITとの組み合わせで新しい価値を生み出すことが経営の課題です。
このような経営の基本のもと，企業経営には明確な**理念**が必要であり，既にお話ししました様に，サラヤでは「**世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献する**」をミッションとして掲げており，このミッションは徐々に世界に展開できています。この展開の柱は，経営理念はお客様第一主義などの言葉で語られていますが，端的に言えば，**お客様をしっかりと見ながら，社員が楽しく，互いに気を遣い，愛嬌と愛情をもって働くように心がけること**がポイントでしょう。

（会長） このイノベーションを支えるのは研究開発力であろうかと感じますが，その体制はどのように考えておられますか。

（更家社長） 研究開発にはかなり重点をおいており，社内での体制のみならず，例えば大阪大学などとの共同研究なども大いに活かす体制を取っています。

（会長） 研究開発の基本は**人**だと思いますが，研究開発にどの程度の人数が携わっておられ，その力をどのように活かしておられますか。

（更家社長） 現在，開発部門では 150 人ぐらいが携わっていています。いずれにしても研究開発には人が関わりますので，研究開発人材は重要で，常に優秀な人材の確保に努めると共に，自主性を持って働きやすい環境を造ることに配慮しています。人材確保には，新卒だけでなく中途採用の門戸も広く開けて，いろいろな人材を求めると共にそれに対応する待遇を準備しています。

我が社はグループ会社が多く，国内でも 15 社以上はありますが，意欲の高い人材がやりたければ自分で起業することも勧めており，個人の意欲を高めることにも配慮しています。このようなところにも，新しい考え方が入りやすい環境への配慮だと考えています。要は「**自主独立的**」に動く人材が増えることがポイントで，そのような環境を常に心がけています。

イノベーションを支える人材の養成と人材評価のあり方

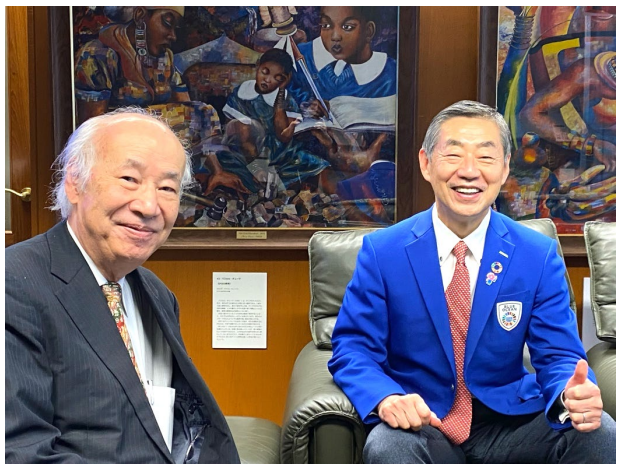
（会長） このような観点からどのような人材を求められていますか。

（更家社長） そうですね，いまは**枠に囚われない新しい自分の考えを展開できる人材**を，ただし，客観的にみて自分の考えに固執してしまわない人材が求められますね。先ほど申し上げました，自主独立的に働くことは，従来枠に固執しないことが出発点で，前広な考えの人材が望まれますね。

（会長） 最近の学生さんを見ていると，我々の時代に比べて知識量はとんでもなく多いとは思いますが，自主独立的というチャンスが与えられれば活きると思われます。

社内で開発を進められるときには個も大切ですが，チームはどのように考えておられますか。

（更家社長） やはり開発は，個も大事ですが**チーム的**にやっていることが多いですね。それは，商品開発はマーケティングに繋がることから個のみでは難しいといえます。我々の商品は，ベンチャー企業等で特化した性能などが強調されるものではなく，より実用に近いもので，開発の初期段階では改良・改善の繰り返しによって，世の中の利便性とかエネルギー削減とかを考えなければなりません。そのためにもチーム力が重要になります。



（会長） このような開発力を維持するために産学共同など活用されているのでしょうか。

（更家社長） そうですね，大学へも常に何人か派遣したりしています。また，例えば感染と消毒については，当社がスポンサーとなって，日本環境感染学会の先生方と冊子

を作っています。このようなところが，商品開発などの入口にもなります。
　このように，学会，大学，あるいは団体などと共有するものがあれば，イノベーションのきっかけ，種になるので大切に考えています。

（会長） イノベーションを支える人材についてのお話をお伺いしましたが，サラヤさんは女性社員も多く，人材の**ダイバーシティ**が進んでいるようですね。大阪大学のダイバーシティ事業でもご支援を頂いており，大阪大学の優秀な女子学生の入学生への奨学金事業にも活用させて頂いています。最近は，工学部でも女子学生の入学者が増えてきて，7 帝大の中でも女子学生比率が一番になっています。産業界からの支援も活きてきている例と感謝しております。

（更家社長） 我が社でも女性の活躍が進み，部長クラスの社員も活躍をしてくれています。

（会長） このように優秀な人材に働いて頂くためにも，従業員への適切な評価が重要かともいますが。

（更家社長） そうですね，従業員が楽しく働いてもらうためにも環境の整備と従業員重視を実践する形で，報いることが重要で，できるだけのことはしたいといつも考えています。従業員の満足度については，常に配慮すべきでしょう。
　ただ，やはり**バランス**が大切です。ステークホルダーは多様でもあり，顧客だけでなく，仕入れ先も，得意先もあり，またコミュニティもあるなど，全体的なバランスを取ることが重要です。

組織力が企業経営を支える：研究開発の重点をどこにおくか：

（会長） このような状況の中で，サラヤの経営方針で一番重視されているポイントは何でしょうか。

（更家社長） 経営は先ほど話ししました様に「イノベーション」が大切ですが，イノベーションを通じて「**組織の力**」が発揮できるような組織をどう造っていくかが大切です。
　いまは，IT が広く使われる様になってきたので，いろいろなクラウドサービスを利用すると重複部分などが見え，組織の責任と権限の見直しも見えてきます。これをやることによって働き方も変わってきております。

（会長） 組織が目標を持って動くことも大切で，ビジョンとしてあげられている**「衛生」「環境」「健康」の**３つの柱の展開についても社員の皆様に徹底しておられるのですか。

（更家社長） 徹底かどうかはともかくも，常々社員には話しかけており，世界に貢献する仕事をしようとの意識を持ってもらうことは重視しています。

（会長） このような方向性を考えて商品開発をするときの視点が問題ですが，研究者は往々にして自分勝手な方向に進みがちですが。

（更家社長） 研究も，ロングターム，ミドルターム，それにショートタームのいずれの立場に立つか，また，**シーズ系**とともにお客様からの要望などを踏まえた**ニーズ系**の両方がいることになります。シーズ

先行でバランスを考えなければ，一発屋で終わってしまいます。地道な改良・改善も必要で，このバランスを研究開発部門でとりながら進めるためのチーム力を高めるために人材の配置など工夫しています。

（会長） そうですね，どのような研究開発に重点をおくのかは 問題で，私か関係している会での，BtoC 系の企業では，お客様からのクレームやお客さんの困りごとは経営の宝であるとお話しされる社長さんがおられます。

（更家社長） ただ，クレームにしろお困りごとにしろ，その情報が社内で共有されることが重要で，例えば営業レベルでとどまることのないようにすることが求められますね。情報共有のシステム化とかクラウド化については鋭意進めております。

国際的に評価される研究を：役割を明確にした産学連携も活かして

（会長） これまでは事業経営などについてのお話を伺って参りましたが，話しは変わるのですが，大学，特に大阪大学の教育研究に関してでも，何かこうあるべきだというようなことがあればお話下さい。

（更家社長） 大阪大学は従前から国際的な繋がりを重視しておられますが，いまや世界は変わってきているし，ノーベル賞も含めてですが，国際的な評価の高い研究を是非行って頂きたく，まずは高い評価の研究の数を高めて頂きたいですね。また，そのような国際的に評価される研究を行う人材の養成も行って頂きたいですね。

（会長） 大切な視点ですね。また，大阪大学では「**共創**」の名のもと産学連携を進めているのですが，どのように感じておられますか。

（更家社長） 最近はノーベル賞でも応用に近い分野で社会実装されたことが評価されるようになってきているようで，是非産学連携を進めて頂きたいですね。ただ，学の役割については十分に配慮頂きたいですね。産学連携といいながら，学が産そのもののような活動をすることは，少し違うように感じます。
　大学の方で，社会に役立つ「**種**」を是非創造して頂きたいですね。

（更家社長） 時代が大きく変わってきていると思いますので，大学が閉じた組織でなく，社会に開かれた形が望まれます。その意味で，互いの役割を踏まえた Co-creation が望まれますね。

（会長） 大阪大学の動きや目指すところについては，現体制のもとで，OU マスタープランとして，「生きがいを育む社会の創造」を実現する計画が策定されていますが，お目に触れたことはありますか，内容はご存じでしょうか，

（更家社長） 残念ながら目にしたことも聞いたこともありません。母校大阪大学が発展を計画されることは，是非進めて頂いて，その見える化も望まれますね。

学生さんへ：若いうちに海外に飛び出そう

（会長） 大阪大学頑張れとの檄をいただきましたが，それでは学生さんに向けて，こうあって欲しいというようなコメントを頂けますか。

（更家社長） 学生さんには，私もそうでしたが，是非世界に飛び出していって欲しいですね。最近は内向き志向で留学も少なく，短期でもいいから是非海外へ行って欲しいですね。例えば，旅行でもいいですから。

（会長） 確かに，留学生については，海外からはコロナ禍も開けてかなり戻ってきたようですが，派遣に関してはまだまだ少なく，2022 年度で 1000 人以下と学生数の 5%以下のようです。OU マスタープランでは 2027 年に 1900 人が目標のようですが，かなり学生の意識の向上が求められるようですね。

（更家社長） 実は，弊社では**外国語学部**の 5 名程度の学生さんの留学を毎年支援しています。少し前に，留学から帰ってきた学生さんの報告会がありましたが，皆さんしっかりしていてびっくりしました。やはり，海外に行くことで，人が変わったようにしっかりとしてくるようですね。若いときに海外で過ごすことで，感動を覚え，また現地の人と接することで得るものがあり，一回り大きくなって帰ってきたようですね。

工学部の学生さんにも海外に飛び出していくように言っておいて下さい。

（更家社長） また，学生さんには，是非自分で考えることを期待したいですね。ネットで情報を得ると直ぐに分かった気になる傾向にあり，その意味でも海外に出て自分の目で新しいことを見る経験はきっと生きてくるでしょう。

未来社会のために何をすべきか：健康寿命の向上へ

（会長） 大学・学生さんへのお話を頂きましたが，未来社会の観点から，今後の社会変化に対応して，何をすべきかなどについてお考えをお話頂けますか。

（更家社長） 日本の場合ははっきりしていることは，明らかに高齢化社会に向かって突入していっています。いまは，国の予算も社会保障に消えていて，いまの予想ではますます増加する状況になりますが，医療費や人件費のカットなども言っています。この状態をしっかりと理解して，どうお金をかけて老後を元気に過ごして頂くかが問われます。

そこで，我々は，「**予防**」が非常に大事だと考えています。この予防などの点にテクノロジーと予算を流しながら，元気で長寿社会を迎えることに繋がることが，一つの大きなビジョンといえます。

若い人には，気概を持って，やはり起業するなどの新しい動きを期待したいですね。阪大でも起業する人材の養成を願いたいです。

人口動態で分かっているので，それに向けて我々は何をすべきかを考えるべきで，国はどうもショートタームな施策ばかりを行っているのですが，この点はしっかりと議論して頂き，しっかりした政策チョイスを示して議論して頂きたいですね。

我々は一企業で小さな力ですが，予防に重点をおいた商品開発を進めており，**健康寿命の向上**を目指す動きは続けております。

（会長） 確かに，いまはいかに健康寿命を延ばすべきで，その面で予防に重点をおいた活動は是非続けて頂きたいですね。

（更家社長） このような意味からも学生さんには頑張ってもらいたいですね。いまの学生さんは知識量では我々の時代に比較ならないと思われますが，我々の時代の学生は何か元気があったように思います。何かを変えようという意識が高かったのではないかと。是非いまの学生さんにも，自分でいろいろロングタームでなすべきことなどを考えて頑張って頂きたく，また，大学での教育にも期待したいですね。

いまは圧倒的な情報量がありますが，自分で考えることは重要で，目的をもって情報を処理することを願いたいですね。

（更家社長） また，工学部といえども是非文系の本を読み，**リベラルアーツ**をつけることが需要で，このリベラルアーツが新しいことを考えるときのベースにもなるのです。今後の未来社会では，文理の区別が明確でなくなるかも知れません。

その意味でも，大学では，教養部がなくなったようですが，理系と文系の知識交流の場を維持して頂き，リベラルアーツにも重点をおくことは望みたいですね。

おわりに：**「地球市民宣言」**

（会長） 長時間にわたって，お話を伺って参りましたが，最後に，皆様にいつも伺っているのですが，更家様が大切にしておられる言葉や座右の銘などがあればお教えください。

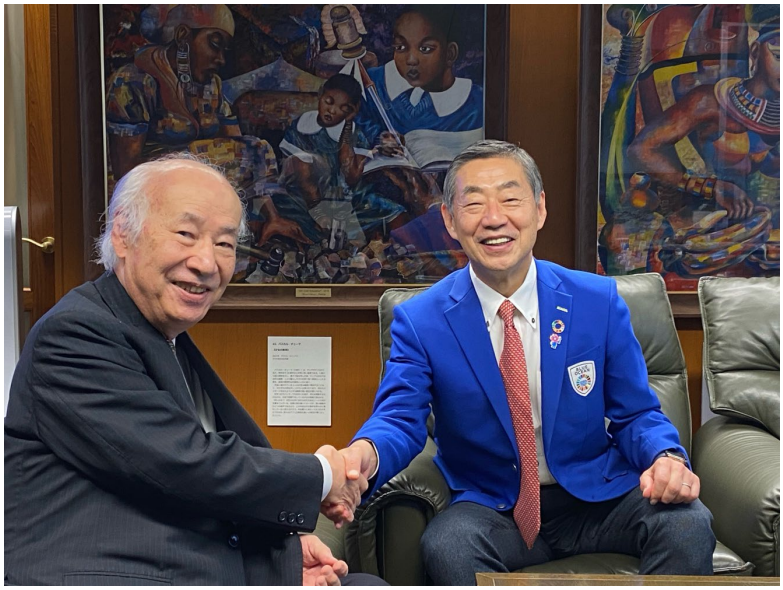
（更家社長） 左右の銘はいろいろあるのですが，既にお話ししましたが，昨年本を出版しまして，そこに記述の「地球市民宣言」を実践したいと思っています。

（以下，「地球市民宣言」より抜粋）

世界中の一人ひとりが「地球市民」であるという気持ちを持ち，様々な課題を「自分ごと」として捉え，本気で取り組んでいけば，世界を少しでも良い方向に変えていけるはず。

不確実性が高まっている今の時代に，「持続可能な世界の実現を目指す」目標には，多くの人が「地球市民」として繋がり，価値観を共有し，お互いに理解して尊重し，思いやりを持って，行動することで初めて実現の目が見えてきます。サラヤはその道程を照らす小さな灯りとなって頑張って参ります。

（会長） 本日は長時間にわたりありがとうございました。



（参考）

更家　悠介（さらや　ゆうすけ）様　サラヤ株式会社　代表取締役社長

経　歴

【生年月日】 1951 年 5 月 30 日　　三重県生まれ

【学　歴 】

1970 （昭和 45 ）年　大阪府立天王寺高等学校 卒業

1974 （昭和 49 ）年　大阪大学工学部 醗酵工学科 卒業

1975 （昭和 50 ）年　カリフォルニア大学バークレー校　工学部衛生工学科修士課程 修了

【職　歴】

1976 （昭和 51 ）年　サラヤ株式会社 入社，取締役工場長 就任

1979 （昭和 54 ）年　同 社 常務取締役 就任

1980 （昭和 55 ）年　同 社 専務取締役 就任

1998 （平成 10 ）年　同 社 代表取締役社長 就任

【表　彰】

大阪府 薬事関係功労者等 知事表彰（2004.10）

藍綬褒章（2010.11.3）

渋沢栄一賞　（2014.2.5）

【社外・団体役員など】

1986 年 社団法人大阪青年会議所 理事長

1989 年 社団法人日本青年会議所 会頭

1991 年 国際青年会議所 常任副会頭 ｾﾌﾞ･ｱｼﾞｱ会議議長

1993 年 2 月 ～1997 年 12 月 財団法人地球市民財団 理事長（設立）

その他公職等

大阪商工会議所 常議員，（特活）エコデザインネットワーク 副理事長，（特活）ゼリ・ジャパン 理事長，（公社）日本食品衛生協会 理事，（一社）生産技術振興協会 常務理事，ﾎﾞﾙﾈｵ保全ﾄﾗｽﾄ（Borneo Conservation Trust）理事，（公社）日本ＷＨＯ協会 副理事長，在大阪ウガンダ共和国名誉領事

【インタビュー後記】

インタビューは，近鉄・針中野駅近くのサラヤ株式会社本社の社長室でお話を伺った。大阪大学のダイバーシティ事業のお手伝いをしているときに，事業への参加や女性人材の交流のお願い，更には，入試の成績優秀女子学生の入学支援金の寄付のお願いまで，正に無理筋のお願いに上がるため，本社へは何回か訪問させて頂いた場所でした。

更家社長様は，少年時代を過ごされた熊野の川や山での思い出が心の奥深く残ることから，「自然」や「環境」を深く意識され，自然にやさしい商品開発を事業の原点としてサラヤ株式会社の事業を展開され，サラヤ株式会社の基本理念である「世界の「衛生，環境，健康」に貢献する」を正に実践する行動家と評価されています。温和な語り口でありながら，確実な決断をされて，理念を実践されている印象を受けました。

特に，昨年上梓された単行本の「地球市民宣言」では，自らのこれまでの活動をもとに，「地球市民」という観点から活動の数々をまとめられ，自然派たる更家様の全体像を知るには格好のものとなっている。その書からも分かるように，更家様は，我が国の衛生・健康への貢献のみならず，特に発展途上のアフリカや東南アジア地域などの衛生・健康への貢献は高く評価されている。最初にインタビューのお願いをしたいのでと紹介をお願いしたときも，いまは海外ですとの話があり，正に活動家で，ウガンダ共和国名誉領事の称号などをお持ちのことが理解できます。

最近は特に海洋プラスチック問題を取り上げられ，空気，水，海洋などのように国境も無く，地球の財産そのものを「地球市民」として考えなさいよと言うお話を伺い，国のエゴで戦争という戦いを現在行っている国の指導者に聞かせたい話であると感じました。

説得力のある話題を端的にお話し頂き，時間があまりない中，幾つかの考えるべき課題も提供頂いたことに感謝すると共に，更家様の活動の一部しか話題として取り上げられなかったことは申し訳ないことでしたが，是非更家様の「地球市民宣言」をお読み頂きたい。更家様の人間性，事業への取り組みの基本的考え方，更には未来像などの多様な内容となっているので是非お読み下さい。

更家様には，大阪大学の発展にもご尽力頂いていて，外語学部の学生の海外研修費用を支援しておられることも伺い，学生さんには是非海外へ出て行くことを心がけて欲しいものだとのお話でしたが，是非，学生さんにも海外経験で，何かを得てきて欲しいものです。

1 時間あまりのインタビューでしたが，更家様の温かい心遣いを感じつつお別れしました。

大阪大学工業会会長　　豊田　政男